

# ゴールデン・トライアングル地帯を訪ねて ——北海道土木技術会 第15回研修旅行——

神 保 二

## 1. はじめに

これまで、北海道土木技術会ではサハリン、韓国、東南アジア諸国を対象に研修を実施してきた。

第15回目となる本年は、東南アジアの中核として繁栄してきたタイと森の国ラオスを訪問し、インフラの整備技術や観光開発が進む地方都市を視察した。以下に研修概要を報告する。

## 2. 研修旅行の概要

### (1) 視察の概要

タイは仏教を基盤とした王国で、日本とは600年に渡る交流の歴史を持ち、友好関係を維持している。

現在でも多くの日本人土木技術者がタイの社会基盤の整備に携わっており、日本の高度な社会資本整備技術を用いた国際技術協力が期待されている。

今回の研修では、バンコクを經由してタイ最北端に位置するチェンライ県に入り、かつて世界中に蔓延していたアヘンの最大級の栽培地あったゴールデン・トライアングル地帯を視察した。また、更に近年リゾート開発が進むタイ南部のサムイ島も訪問した。

(2) 日 程：2010年1月15日～22日

(3) 研 修 地：タイ、ラオス

(4) 団員構成：神谷光彦団長(北海道工業大学)、真田英夫(道路情報館)、鈴木輝之(北見工業大学)、池田晃一(北海道土質コンサルタント)、佐々木勝介(TCE 技術士総合事務所)、八戸裕(大林組)、武田覚(ドーコン)、下倉宏(日本工営)、福山実(日本衛生)、石塚学(アクアジオテクノ)、斉藤昌一(産経海外旅行)と筆者を加えた12名。

### (5) 視察場所

#### ①チェンライ県内の町

(チェンライ、メーサイ、チェンセーン)

#### ②ゴールデン・トライアングル

#### ③国道1016号、1020号の拡幅工事

#### ④サファイヤ鉱山(ラオス)

#### ⑤サムイ島

## 3. 視察報告

### (1) チェンライ県の町のようす



図-1 研修位置図<sup>1)</sup>

### ①県庁所在地 チェンライ

タイ北部の研修ではチェンライを拠点に各地を視察した。チェンライはバンコクから北へ約 820 km (飛行機でおよそ 1 時間 20 分ほど) の所に位置し、13 世紀にランナータイ王朝の都として栄え、美しい寺院や遺跡も多く残る歴史ある町である。また、チェンライ近郊は 21 部族約 51 万人の山岳民族が住む民族色豊かな地域でもある<sup>2)</sup>。

気持ちの良い朝の涼しさと、静かな佇まいの中にある寺院が印象に残る。



写真-1 チェンライの朝



写真-2 カレン族の少女

### ②国境の町 メーサイ

チェンライから北に 70 km の所に位置し、国道 1 号線(バンコクでおなじみのパホンヨーティン通り)の最終地点である。ミャンマーと陸路で結ばれている町で、川幅が 30 m もない狭い川に掛けられた橋のたもとに検問所があり、両国の人々や物資を積んだトラックが賑やかに行き交い活気に満ち溢れた町であった。



写真-3 タイ側検問所



写真-4 川を挟みタイとミャンマー

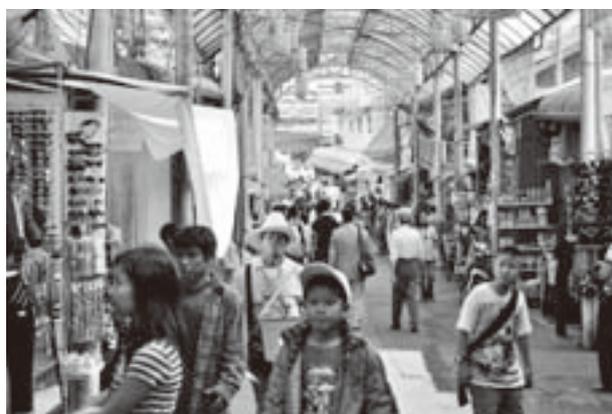


写真-5 メーサイの商店街

### ③古都チェンセーン

チェンライから北東に 60 km 離れたメコン川沿いに位置する。

1327 年チェンセーン王国の首都として建設され、タイ族最初の王朝として栄えた北部文化の発祥の地である。静かな緑に包まれた小さな町には遺跡や寺院が数多く残され、過去の歴史を十分に実感できた。



写真-6 ワット・パー・サク遺跡

年にわたり警察力が麻痺していたが、1985年になって漸くタイ政府はケシ畑の撲滅を行い、電気や道路など地域インフラの整備を促進してきた<sup>3)</sup>。このように開発が遅れたことにより、逆に豊かな自然資源が保たれ、穏やかな気候と合わせてリゾート開発が進み一大観光地となった。

現在のソップ・ルアク村は、ホテル、土産物店が立ち並び、高台から三国が一望できる雄大な風景にひかれて多くの観光客が訪れる町に変貌し、「魔境」の雰囲気はどこにも感じられなかった。



写真-8 土産物店が並ぶ通り

## (2) ゴールデン・トライアングル見学

タイとラオス間を流れるメコン川と、タイとミャンマー間を流れるサイ川との合流点に、いわゆるゴールデン・トライアングル(ソップ・ルアク村)がある。かつてはアフガニスタン、パキスタン、イラン国境付近の「黄金の三日月地帯」と並ぶ世界最大級のアヘン栽培地であり、「魔境」と呼ばれていた。長



写真-7 ゴールデン・トライアングル



写真-9 参加者集合写真

## (3) サファイヤ鉱山視察

ラオスとの国境の町チェンコンにて出国手続きを済ませ、メコン川を挟んで対岸のフェーサイ(ラオス)へボートで渡った。乾期であったため、水位は平水時から見ると4mほど低いとのことである。日曜日ということで一人1ドルのオーバータイム料金を払い入国した。鉱山へはフェーサイの町から車で険しい山道を行くこと30分で到着した。



写真-10 メコン川を挟み対岸がラオス



写真-12 鉱山(その1)



写真-11 フェーサイ(ラオス)市街



写真-13 鉱山(その2)

ここは1996年から採掘を開始し、80万haの採掘鉱区の内まだ2～3%の採掘状況である。今までに50万カラットのサファイヤ(ブラックサファイヤ、ブルーサファイヤを採掘)をヨーロッパへ輸出している。2年前から作業を休んでいるため、採掘作業は見学できなかったが、今年から再開するとのことであった。また、当地域は温泉資源にも恵まれており有効活用を検討している。

#### (4) タイ北部の道路整備視察

タイ北部ではランパーン、パヤオ、チェンライの北タイ3都市を貫く主要幹線の国道1号を中心に道路網が整備され、さらに近年の経済活動の進展とともに道路拡張工事も盛んに行われている。

今回の視察内容はチェンセン、チェンコンへ向かう国道1016号、1020号の道路拡幅工事である。

施行に使用する基盤材にタイ北部にも分布するラテライトを使用している。ラテライトは湿っている

ときは、普通の土のように軟らかいが、いったん乾燥すると鉄分の影響で非常に硬くなる性質がある。この大変便利な性質を利用し、土を盛り上げて締め固め、基部が乾いた後に舗装するという工事方法であった。



写真-14 国道1016号(チェンセン郊外)



写真-15 国道1020号(チェンコン郊外)



写真-17 サマイ島 東部海岸



写真-16 土質観察

### (5) サマイ島見学

サマイ島へは、バンコクのスワンナプーム空港から約1時間20分の飛行で到着した。タイ湾西部に位置し、周囲は約60kmの丸い島で、中央部はジャングルである。全島がココナッツで覆われていることから「ココナッツ・アイランド」と呼ばれる。昔は静かな漁村であったが、1970年代から欧米のバックパッカーが訪れるようになったのが始まりで、今やプーケットに次いでタイを代表するリゾート地として発展し続けている。ただし、高いビル建設を規制し自然景観を損なわない開発を基本にしていることもあり、豊かな自然が残る美しい島である<sup>4)</sup>。

経済は、農業・漁業も行われているが、観光業への依存が高い。観光客は欧米や中国、韓国から多く訪れている。日本からは年間8千人程度とのことである。

### ① リゾートエリア

活気に溢れた東部、波も穏やかで静かな北部などそれぞれに個性あるビーチが点在している。中でも東海岸には、白砂の浜辺が約7km続く島内随一のリゾートエリア、チャウエン・ビーチがある。ビーチ沿いには様々なタイプのホテルが建ち並び、メイン通りはレストランやバー、土産物屋が軒を連ね昼も夜も賑やかであった。



写真-18 チャウエン地区メイン通り

### ② ナトン・タウン港

島の北西部にあり、島内唯一の街である。スラタニなどの本土からフェリーが発着することもあり、サマイ島の玄関口として発展を続ける港町であった。



写真-19 ナトン港(その1)



写真-20 ナトン港(その2)

#### 4. おわりに

今回の研修では、チェンライから国境の町メーサイ、古都チェンセーンを經由しゴールデン・トライアングルを巡り、歴史に刻まれたタイ北部の文化について学ぶことができ、またサムイ島では豊かな自然に恵まれリゾート地として発展を続ける様子を実感できた、初めて研修旅行に参加した私にとって貴重な体験ができ、大変有意義な8日間であった。

最後に、今回の研修に同行して頂きました団員の皆様に感謝を申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 旅のとも、ZenTech HP (タイ地図)
- 2) タイ国政府観光庁 HP (チェンライ北部エリア)
- 3) タイ／ラオス歴史紀行 日経 BP 企画 2008.4
- 4) サムイ島 タイ国政府観光庁 2001.08

榊 保二 (さかき やすじ)  
技術士(建設/総合技術監理部門)

野外科学 株式会社

